

## 高次収束のニュートン法

ニュートン法は2次収束であるが、それを拡張して高次収束のニュートン法を導出する。高次収束のニュートン法は、2次収束のニュートン法と比べて計算量的に有利になることはない。なぜなら、例えば2次収束を2回を行うとき、1回目は有効桁が小さくても良いため計算量も小さくできるが、4次収束の場合はどの項も同じ有効桁で計算するからである。ただし、乗算の回数だけで速度が決まるような場合は、若干だけ速く収束することがある。

### 漸化式の導出

$f^{-1}(x)$ の値は少ない計算量で求められるが、 $f(x)$ の値を求めるには計算量が大きい場合に、 $f^{-1}(x)$ の値を求めることにより $f(a)$ を求める漸化式を導く。

まず、第0近似として、 $f(a)$ の粗い近似値 $y_0$ を求める。 $x_0 = f^{-1}(y_0)$ とすると、 $x_0$ は $a$ に近い値となる。よって、 $h = a - x_0$ と置くと、 $h$ の絶対値は小さい。 $a = x_0 + h$ であるから

$$f(a) = f(x_0 + h)$$

右辺をテーラー展開すると

$$\begin{aligned} f(a) &= f(x_0) + f'(x_0)h + \frac{1}{2!}f''(x_0)h^2 + \frac{1}{3!}f'''(x_0)h^3 + \dots \\ &= y_0 + f'(x_0)h + \frac{1}{2!}f''(x_0)h^2 + \frac{1}{3!}f'''(x_0)h^3 + \dots \end{aligned}$$

ここで、 $x_0 = f^{-1}(y_0)$ 、 $h = a - x_0$ であるから、 $f(a)$ は $y_0$ だけで表される。

$f'(x_0), f''(x_0), f'''(x_0), \dots$ が少ない計算量で求められれば、 $f(a)$ の高次近似が得られる。

これを用いると、例えば、 $f(a)$ に4次収束する $y_n, y_{n+1}$ についての漸化式は、次のようになる。

$$y_{n+1} = y_n + f'(x_n)h + \frac{1}{2!}f''(x_n)h^2 + \frac{1}{3!}f'''(x_n)h^3$$

$$\text{ただし、 } x_n = f^{-1}(y_n), \quad h = a - f^{-1}(y_n)$$

### 通常の新トン法との関係

#### 2次収束の場合

$$y_{n+1} = y_n + f'(x_n)h$$

となるが、 $f^{-1}(y) = g(y)$ とおくと、 $x = g(y)$ であるから、

$$f'(x) = \frac{dy}{dx} = \frac{1}{\frac{dx}{dy}} = \frac{1}{g'(y)}$$

よって、 $f'(x_n) = \frac{1}{g'(y_n)}$ であるから

$$y_{n+1} = y_n - \frac{g(y_n) - a}{g'(y_n)}$$

となる。これは、通常のニュートン法と一致する。

### 3次収束の場合

$$f''(x) = \left( \frac{1}{g'(y)} \right)' = -\frac{g''(y)}{\{g'(y)\}^2} \cdot \frac{dy}{dx} = -\frac{g''(y)}{\{g'(y)\}^2} \cdot \frac{1}{g'(x)} = -\frac{g''(y)}{\{g'(y)\}^3}$$

これを

$$y_{n+1} = y_n + f'(x_n)h + \frac{1}{2!} f''(x_n)h^2$$

に代入して

$$y_{n+1} = y_n - \frac{g(y_n) - a}{g'(y_n)} - \frac{g''(y_n)}{2\{g'(y_n)\}^3} \cdot \{a - g(y_n)\}^2$$

整理して

$$y_{n+1} = y_n - \frac{g(y_n) - a}{g'(y_n)} \cdot \left[ 1 + \frac{\{g(y_n) - a\}g''(y_n)}{2\{g'(y_n)\}^2} \right]$$

が得られる。

$g(y_n) - a$  が十分に小さいときに、さらに変形する。

$$1 + \frac{\{g(y_n) - a\}g''(y_n)}{2\{g'(y_n)\}^2} \approx \left[ 1 - \frac{\{g(y_n) - a\}g''(y_n)}{2\{g'(y_n)\}^2} \right]^{-1} = \frac{2\{g'(y_n)\}^2}{2\{g'(y_n)\}^2 - \{g(y_n) - a\}g''(y_n)}$$

であるから、漸化式は

$$y_{n+1} = y_n - \frac{g(y_n) - a}{g'(y_n)} \cdot \frac{2\{g'(y_n)\}^2}{2\{g'(y_n)\}^2 - \{g(y_n) - a\}g''(y_n)}$$

すなわち

$$y_{n+1} = y_n - \frac{2\{g(y_n) - a\}g'(y_n)}{2\{g'(y_n)\}^2 - \{g(y_n) - a\}g''(y_n)}$$

さらに、分子・分母を  $2g'(y_n)$  で割って

$$y_{n+1} = y_n - \frac{g(y_n) - a}{g'(y_n) - \frac{\{g(y_n) - a\}g''(y_n)}{2g'(y_n)}}$$

となる。これはハレー法と呼ばれている。

### n乗根の逆数

$$f(x) = \frac{1}{\sqrt[n]{x}} = x^{-\frac{1}{n}} \quad (n \text{ は自然数}) \text{ のとき}$$

$$y_0 = x_0^{-\frac{1}{n}} \text{ であるから, } x_0 = y_0^{-n}$$

$$f(a) = (x_0 + h)^{\frac{1}{n}} = x_0^{\frac{1}{n}} \left(1 + \frac{h}{x_0}\right)^{\frac{1}{n}} = y_0 \left(1 + \frac{h}{y_0^{-n}}\right)^{\frac{1}{n}} = y_0 (1 + h \cdot y_0^n)^{\frac{1}{n}}$$

初期値は  $x_0 > a$  となるように取るので、 $h < 0$  であるから、 $h \cdot y_0^n = -k$  とおくと

$$f(a) = y_0 (1 - k)^{\frac{1}{n}}$$

ただし、 $k = (x_0 - a) \cdot y_0^n = (y_0^{-n} - a) \cdot y_0^n = 1 - a \cdot y_0^n$

すなわち

$$\frac{1}{\sqrt[n]{a}} = \frac{y_0}{\sqrt[n]{1-k}} \quad \text{ただし } k = 1 - a \cdot y_0^n$$

右辺をテーラー展開すれば、高次収束のニュートン法が得られる。

例  $f(x) = \frac{1}{\sqrt{x}}$  のとき

$$\frac{1}{\sqrt{a}} = \frac{y_0}{\sqrt{1-k}} \quad \text{ただし } k = 1 - a \cdot y_0^2$$

右辺をテーラー展開して

$$\begin{aligned} \frac{1}{\sqrt{a}} &= y_0 \left( 1 + \frac{1}{2}k + \frac{1}{2!} \cdot \frac{3}{2^2}k^2 + \frac{1}{3!} \cdot \frac{3 \cdot 5}{2^3}k^3 + \frac{1}{4!} \cdot \frac{3 \cdot 5 \cdot 7}{2^4}k^4 + \frac{1}{5!} \cdot \frac{3 \cdot 5 \cdot 7 \cdot 9}{2^5}k^5 + \dots \right) \\ &= y_0 \left( 1 + \frac{1}{2}k + \frac{3}{8}k^2 + \frac{5}{16}k^3 + \frac{35}{128}k^4 + \frac{63}{256}k^5 + \dots \right) \end{aligned}$$

註  $\sqrt{a} = a \cdot \frac{1}{\sqrt{a}}$  として  $a$  の平方根が求められる。

例  $f(x) = \frac{1}{x}$  のとき

$$\frac{1}{a} = \frac{y_0}{1-k} \quad \text{ただし } k = 1 - a \cdot y_0$$

右辺をテーラー展開をして

$$\frac{1}{a} = y_0 (1 + k + k^2 + k^3 + k^4 + \dots)$$

さらに変形すると

$$\begin{aligned} \frac{1}{a} &= y_0 \{ (1+k) + (1+k)k^2 + (1+k)k^4 + \dots \} \\ &= y_0 (1+k)(1+k^2+k^4+k^6+\dots) \\ &= y_0 (1+k)(1+k^2)(1+k^4)(1+k^8)\dots \end{aligned}$$

例  $\sqrt[3]{a}$  を求めよう。

まず  $\frac{1}{\sqrt[3]{a^2}}$  を求め、 $\sqrt[3]{a} = a \cdot \frac{1}{\sqrt[3]{a^2}}$  より  $\sqrt[3]{a}$  を求める。

そのためには、 $f(x) = \frac{1}{\sqrt[3]{x}}$  として、 $f(a^2) = \frac{1}{\sqrt[3]{a^2}}$  を求めればよい。

$$\frac{1}{\sqrt[3]{a^2}} = \frac{y_0}{\sqrt[3]{1-k}} \quad \text{ただし } k = 1 - a^2 \cdot y_0^3, \quad y_0 \text{ は } \frac{1}{\sqrt[3]{a^2}} \text{ の粗い近似値}$$

右辺をテーラー展開して

$$\begin{aligned} \frac{1}{\sqrt[3]{a^2}} &= y_0 \left( 1 + \frac{1}{3}k + \frac{1}{2!} \cdot \frac{4}{3^2}k^2 + \frac{1}{3!} \cdot \frac{4 \cdot 7}{3^3}k^3 + \frac{1}{4!} \cdot \frac{4 \cdot 7 \cdot 10}{3^4}k^4 + \frac{1}{5!} \cdot \frac{4 \cdot 7 \cdot 10 \cdot 13}{3^5}k^5 + \dots \right) \\ &= y_0 \left( 1 + \frac{1}{3}k + \frac{2}{9}k^2 + \frac{14}{81}k^3 + \frac{35}{243}k^4 + \frac{91}{729}k^5 + \dots \right) \end{aligned}$$

註 1 除法を用いないので、下記の $\sqrt[n]{x}$ のニュートン法より高速である。

註 2 2次収束のニュートン法を用いるとき  $\frac{1}{\sqrt[3]{a^2}} \approx y_0 + \frac{y_0 - (ay_0^2)^2}{3}$  と変形すれば、乗算は3回となり、

高次収束のニュートン法より高速である。

## n 乗根

$f(x) = \sqrt[n]{x} = x^{\frac{1}{n}}$  ( $n$  は自然数) のとき

$y_0 = x_0^{\frac{1}{n}}$  であるから、 $x_0 = y_0^n$

$$f(a) = (x_0 + h)^{\frac{1}{n}} = x_0^{\frac{1}{n}} \left( 1 + \frac{h}{x_0} \right)^{\frac{1}{n}} = y_0 \left( 1 + \frac{h}{y_0^n} \right)^{\frac{1}{n}}$$

初期値は  $x_0 > a$  となるように取るので、 $h < 0$  であるから、 $\frac{h}{y_0^n} = -k$  とおくと

$$f(a) = y_0(1-k)^{\frac{1}{n}}$$

ただし、 $k = \frac{x_0 - a}{y_0^n} = \frac{y_0^n - a}{y_0^n} = 1 - \frac{a}{y_0^n}$

すなわち

$$\sqrt[n]{a} = y_0 \sqrt[n]{1-k} \quad \text{ただし } k = 1 - \frac{a}{y_0^n}$$

註 除法が入るため、速度的に不利である。

例  $f(x) = \sqrt{x}$  のとき

$$\sqrt{a} = y_0 \sqrt{1-k} \quad \text{ただし} \quad k = 1 - \frac{a}{y_0^2}$$

右辺をテーラー展開して

$$\begin{aligned} \sqrt{a} &= y_0 \left( 1 - \frac{1}{2}k - \frac{1}{2!} \cdot \frac{1}{2^2} k^2 - \frac{1}{3!} \cdot \frac{3}{2^3} k^3 - \frac{1}{4!} \cdot \frac{3 \cdot 5}{2^4} k^4 - \frac{1}{5!} \cdot \frac{3 \cdot 5 \cdot 7}{2^5} k^5 - \dots \right) \\ &= y_0 \left( 1 - \frac{1}{2}k - \frac{1}{8}k^2 - \frac{1}{16}k^3 - \frac{5}{128}k^4 - \frac{7}{256}k^5 - \dots \right) \end{aligned}$$

## ニュートン法の変形

テーラー展開

$$f(a+h) = f(a) + f'(a)h + \frac{1}{2!} f''(a)h^2 + \frac{1}{3!} f'''(a)h^3 + \dots$$

より

$$f(a) = f(a+h) - \left\{ f'(a)h + \frac{1}{2!} f''(a)h^2 + \frac{1}{3!} f'''(a)h^3 + \dots \right\}$$

ここで,  $f(a+h) = y$  とおくと,  $h = f^{-1}(y) - a$

$$f(a) = y - \left\{ f'(a)h + \frac{1}{2!} f''(a)h^2 + \frac{1}{3!} f'''(a)h^3 + \dots \right\}$$

これを用いると, 例えば,  $f(a)$  に 4 次収束する  $y_n, y_{n+1}$  についての漸化式は, 次のようになる。

$$y_{n+1} = y_n - \left\{ f'(a)h + \frac{1}{2!} f''(a)h^2 + \frac{1}{3!} f'''(a)h^3 \right\} \quad \text{ただし} \quad h = f^{-1}(y_n) - a$$

## 円周率への応用

$f(x) = \arccos x$  のとき  $f(0) = \arccos 0 = \frac{\pi}{2}$

$$f'(x) = -\frac{1}{\sqrt{1-x^2}} = -\left( 1 + \frac{1}{2}x^2 + \frac{1}{2!} \cdot \frac{3}{2^2} x^4 + \frac{1}{3!} \cdot \frac{3 \cdot 5}{2^3} x^6 + \frac{1}{4!} \cdot \frac{3 \cdot 5 \cdot 7}{2^4} x^8 + \dots \right)$$

積分して

$$f(x) = \frac{\pi}{2} - \left( x + \frac{1}{2 \cdot 3} x^3 + \frac{1}{2!} \cdot \frac{3}{2^2 \cdot 5} x^5 + \frac{1}{3!} \cdot \frac{3 \cdot 5}{2^3 \cdot 7} x^7 + \frac{1}{4!} \cdot \frac{3 \cdot 5 \cdot 7}{2^4 \cdot 9} x^9 + \dots \right)$$

よって

$$\frac{\pi}{2} = f(x) + \left( x + \frac{1}{2 \cdot 3} x^3 + \frac{1}{2!} \cdot \frac{3}{2^2 \cdot 5} x^5 + \frac{1}{3!} \cdot \frac{3 \cdot 5}{2^3 \cdot 7} x^7 + \frac{1}{4!} \cdot \frac{3 \cdot 5 \cdot 7}{2^4 \cdot 9} x^9 + \dots \right)$$

$f(x) = y$  とおくと,  $x = \cos y$  であるから

$$\frac{\pi}{2} = y + \left( \cos y + \frac{1}{2 \cdot 3} \cos^3 y + \frac{1}{2!} \cdot \frac{3}{2^2 \cdot 5} \cos^5 y + \frac{1}{3!} \cdot \frac{3 \cdot 5}{2^3 \cdot 7} \cos^7 y + \frac{1}{4!} \cdot \frac{3 \cdot 5 \cdot 7}{2^4 \cdot 9} \cos^9 y + \dots \right)$$

例えば  $\frac{\pi}{2}$  を求める 9 次収束の漸化式は次の様になる。

$$y_{n+1} = y_n + \left( \cos y_n + \frac{1}{6} \cos^3 y_n + \frac{3}{40} \cos^5 y_n + \frac{5}{112} \cos^7 y_n \right)$$

変形して

$$y_{n+1} = y_n + \left( \left( \left( \frac{5}{112} \cos^2 y_n + \frac{3}{40} \right) \cos^2 y_n + \frac{1}{6} \right) \cos^2 y_n + 1 \right) \cos y_n$$